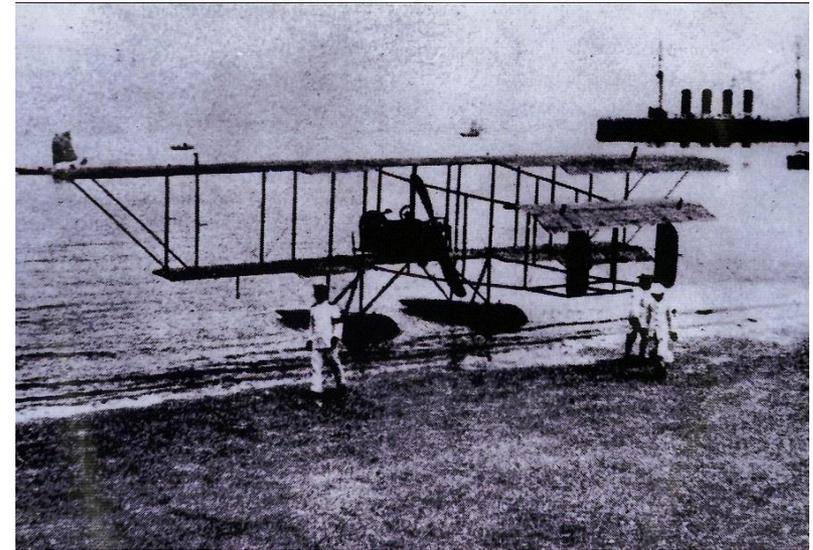


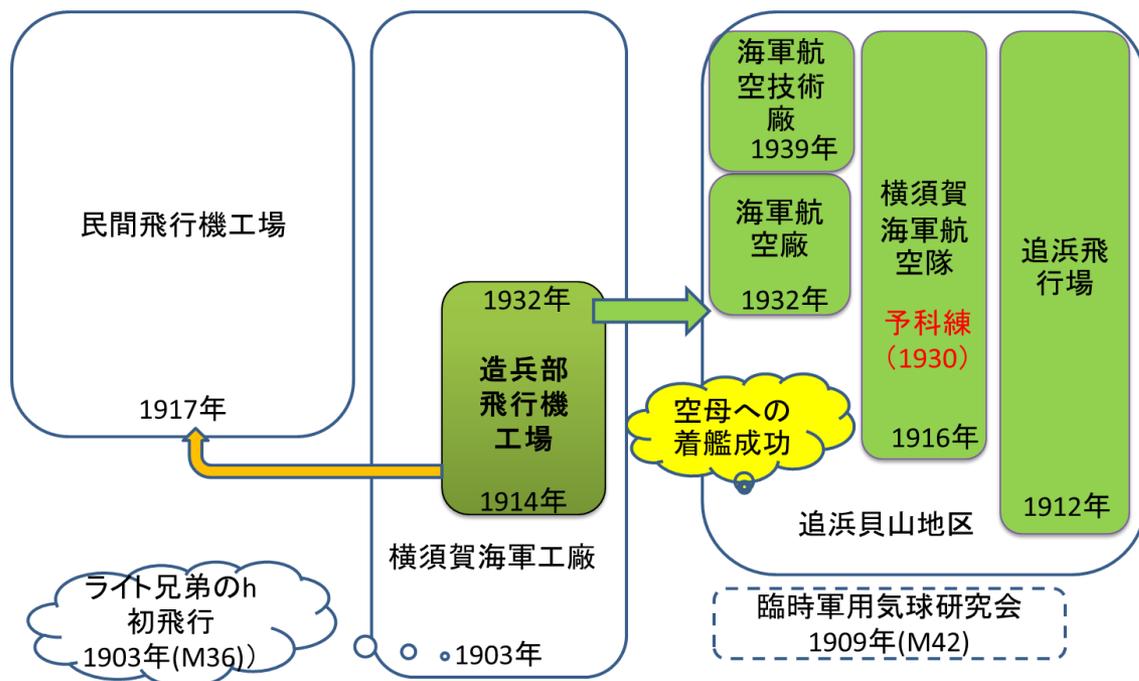
追浜における 我が国 海軍航空の芽生え (明治45年 (大正元年) 1912年)



追浜の浜が選ばれた理由;

- 海岸の波が穏やかで、
水上航空機の運用に適していた
- 横須賀海軍工廠に近く、技術連携が容易
- 横須賀鎮守府にも近く、指揮統制が容易

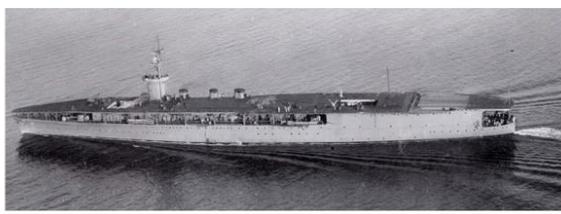
海軍は大艦巨砲主義で、航空機にはあまり力を入れてこなかったという話があります。確かに大艦巨砲主義の一面はあったかもしれませんが、第一次世界大戦後の海軍軍縮会議において、戦艦はもとより特に使い勝手の良い補助艦艇の保有量まで制限を受けた海軍は、航空機開発の重要性を痛感します。



その表れの一つが海軍航空技術廠であり、この追浜の地を海軍航空開発の一大拠点としていくのです。横須賀海軍工廠と航空技術廠の関係をポンチ絵にしてみました。



1922年(T11年)鳳翔就役
世界初の新造空母(9494ト)



1922年(T11年)公試中の空母鳳翔(wikipediaより)

一〇式艦上戦闘機、「鳳翔」への着艦実験成功1923年(T12.3.16)



一〇式艦上戦闘機の初期の着艦時の写真(wikipediaより)

横須賀海軍航空隊(追浜)

海軍航空做/
技術做

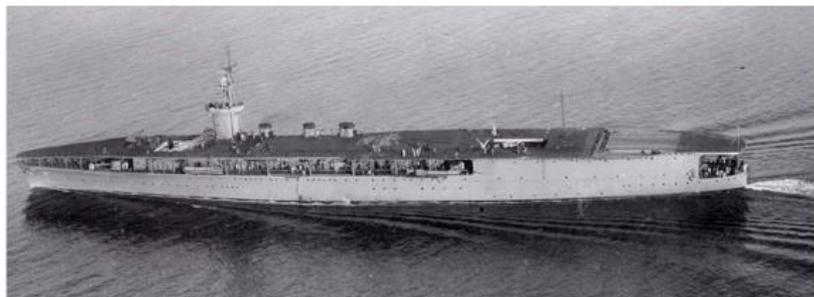
造兵部飛行機工場

横須賀海軍工廠

世界初の航空母艦

1922年(T11年)鳳翔就役

世界初の新造空母(9494トン)



1922年(T11年)公試中の空母鳳翔(wikipediaより)

一〇式艦上戦闘機、「鳳翔」への
着艦実験成功1923年(T12.3.16)



一〇式艦上戦闘機の初期の着艦時の写真(wikipediaより)

横須賀海軍工廠で世界初の空母鳳翔が建造され、その空母と艦載機の一体となった開発がこの地においてなされました。

その後、海軍は世界で最も強力な空母機動部隊を作り上げます。

でも敗因は色々あるにせよミッドウエー海戦で大打撃を受け、最後は敗戦になるのです。

予科練発祥の地



「予科練誕生之地」の碑 (貝山緑地)

横須賀の海軍工廠の陰に隠れて、海軍航空の発祥の地が追浜にあったことを忘れがちです。今でも当時の地下壕が残っています。

七つボタンの海軍予科練の歌には「霞ヶ浦」が出てきます。しかし予科練は1930(S5)追浜から誕生します。

細部は
5-2 海軍航空の発祥の地(追浜)
をご覧ください